

## 「学歴」と「就職」に関する文書を読む前に

これからあなた達が志成館のこの文書を読むに当たっての「重大な注意事項」を記します。しっかりと意味を理解したうえで、この文書を読んでください。

今日の「学歴社会」という発想は、そもそも「職業の価値に高低や尊卑ないし良否の評価を当然の前提として議論されていることが多い」ということに気が付く必要があるということです。言い換えるなら、この文章の中には「職業には尊卑がある」ないし「職業による人間の差別という偏見が議論の根底に横たわっている」ということを理解したうえで、読んでほしいということです。

「人間はすべてにおいて法の下に平等であるべきだ」というのは日本国憲法14条の規定ですが、このような人権尊重の規定はどこの近代国家の憲法にもあります。そうである以上は、その人間が生きていくうえで欠かせない「仕事」に対する評価も基本的には平等であるべきだということになります。つまり、「職業による偏見や差別があってはならない」ということです。

しかし現実の社会では、仕事内容によって多くの人々が一方では「立派な仕事である」とか「偉い人がする仕事である」と高い評価をする半面で、他方では「あまり恰好が良くない仕事である」とか「社会の底辺の人がする惨（みじ）めな仕事である」というように仕事を蔑視する傾向があります。実際にも賃金には多くの差があり、社会的な待遇も大幅に異なっています。

しかし、「社会的に有用な仕事は等しく尊重されるべきである」というごくありふれた当然の言葉が広く社会で受け入れられない理由は、社会の組織構造自体に欠陥がある証拠であり、職業による差別を平然と行う人たちがいるということは、その個々人に欠点があるのです。このような社会の欠陥や人格的な欠点がなければ、そもそも「学歴社会の問題点などを議論する必要もない」ということになります。

ですから、必要なことは、仕事による大きな賃金格差をなくすことと、職業によって人を差別する人間を社会的に啓蒙し教化することが優先事項となるはずで

理解して頂けましたか。社会がよりよくなり、すべての人が自分の仕事に誇りが持て、どのような仕事をしていても十分な生活ができるような社会が実現できれば、そもそも学歴の問題などが生じることはなくなり、この点での差別もなくなるということです。そして現在の日本や世界中の人々にとって必要不可欠なことは、「どんな仕事をしていても、みんなから尊敬され、みんなを尊敬する社会を構築すること」だということです。そのような社会の実現に向かって、人々はお互いに協力し合っていくことの方がとても大切であるという認識の共有が必要だということです。

人には向き不向きがあり、個々人に適合するかしないかは個々人が判断することです。しかしどのような仕事であっても、同じように尊重され、賃金もそれほどの差異がない社会になれば、仕事での悩みということは「生きていく手段についての悩みが少ない人生」が送れるような社会になります。そのような社会をイメージして、そのような理想的な社会を実現する努力の方が大切であるという考えを持っていただければ、この「学歴と就職」の項目は、それほど重要ではないということです。

2020年5月17日(日)

以上、ぜひともみなさんの心にもって生きていただきたい「人としての誇り」と「ある種の理想論」を記述しました。上述の内容を理解したうえで、現在の未熟な社会、そして多くの未熟な人間が生きている「現実の社会」で、強く生き抜くために、この志成館の「学歴社会」という、ある意味ではとても厳しい文書に立ち向かってください。そして「自分で納得できる人生」を実現してください。

志成館の生徒さんたちへの、館長からの熱い思いと愛情をから作成した文章です。ぜひともこの項の内容を、今後の人生に役立ててください。

# 「就職」と「学歴社会」の現実をありのままに見つめましょう

まず右の記事を見てください。これは2017年8月27日の毎日新聞の第1面の記事です。この記事の意味は「近い将来は銀行業が求人をしなくなる可能性がある＝今のようなかたちの銀行がなくなってしまうだろう」というものです。志成館は最近の ASSETS でアメリカの週刊誌TIMEの記事から「将来自分の子供たちが一体どのような仕事をしているか予測がつかない保護者が70%近くいる」という内容のメッセージを送りました。またTIMEに載っていた「アメリカで将来生き残れる仕事内容についてのランキング」の記事も紹介しました。そうなのです、君たちには将来の安定した職業の保障もないくらいに産業構造も変化してきているのです。そんな中で、「たぶんこの仕事や会社は将来も生き残るであろう」という判断が難しいことは言うまでもないことなのですが、その「将来性があると自分で考えた会社に入ること」さえもがとて難くなっています。そこでこの項は、中学生高校生そして大学生の参考になればと思い、20年以上前に作成して志成館のすべての生徒に配布していて、10年前にリメイクしていた志成館の ASSETS を再度リメイクしてホームページにアップしました。この文書を参考にして、恐ろしいほど厳しい「就職という狭き門」を通り抜けてください。「自分が入りたい会社にしがみついても入ろうという決意がある人」にはきっと役に立つと思います。それにしても今に比べると1973年ころの館長が大学を卒業した時代の就職状況は「夢の世界」だったとつくづく思い知らされます。

## AIが個人格付け

「私はバンクが高いから、多くの優待をいただけるんだ。8月下旬、スマートフォンで身体検査の予約を終えた北京の会社員、王順さん(38)は満足そうにふやいている。中国のホテルではチェックインの際、保証金を払うが、王さんは料金を払わずに済んだ。優待は、中国IT大手アリババグループのスマホ決済サービスと連動した「信用スコア」が可能にした。スマホ決済の利用履歴に加え、車や家賃の保険履歴、友人などの情報を入力すれば、人工知能(AI)が自ら50段階でスコアを算出する。

IT企業に勤め、買い物が公共料金まで毎月8000元(約13万円)近くをスマホ決済する王さんのスコアは7.7点で、5段階のうち最高ランク。スコアが高いほど優待も多くなる。規制があり金融サービスが遅れ

ていた中国だが、近年はIT企業が既存の金融を飛び越えてAIと金融を融合した「フィンテック」を活用し、スマホ決済の代表、スマホ決済でタクシー、唐店などあらゆる場面で簡単に支払いができる。その決済情報から生み出されたスコアが、優待を通じて新たな客を引き寄せる。アリババのスマホ決済利用者は約5億人。2015年に開始したスコアの取得者も急増しているという。巨大な情報インフラに成長したスコアは、個々の「格付け」にも応用されつつある。恋人募集中。対象はスコア7.0以上の人だけだよ。私は7.93。私も7.00超えだよ。ネットのお見合いサイト掲示板には、自分のスコアを晒した画像が次々に掲載されていた。個人情報をネットにさらす警戒はなく、高スコアを誇っているかのようだ。

国内でも、みずほ銀行ソフトバンクが9月、信用スコアに応じて融資条件を決める金融サービスを始め、日本でも同じようなフィンテックの応用、蓄しや経済はいつ変わるのか難問だ。(今回は写真面に白黒転写せず)

3面につづく

最高ランクの信用スコア7.7点を見せられたスマートフォンを握る王さん(北京、赤淵清撮影)

フィンテック 英語のフィンテック(金融+技術)とテクノロジーを組み合わせた造語。ITを駆使した新金融サービスを意味する。スマートフォン決済やAIによる投資助言サービスが登場している。

アリババの狙いは、買い物や移動履歴とあらゆる個人情報とを把握し、ビジネスに利用する点にある。それが政府に取られることも想像難くない。だが王さんは「個人情報を求める社会のうねりは誰にも止められない」と語る。

鳴動 FinTech

第1部 転換の足音 ①

中国先行 高スコア優遇で急増

## 「学歴」と「就職」について

志成館

ASSETS 2007年5月10日特別版  
2017年8月31日 ホームページ用 訂新版

今回のASSETSはひろく「学歴」と呼ばれるものの実態についての説明をします。小学生や中学1年生にとっては難解で早すぎる話ですので興味がある人だけ読んで下さい。中学2年生と中学3年生はこの文書を読むと企業社会における受験戦争のもつ本当の意味がわかりますので必ず読んで下さい。高校生や大学生になったら、就職その他で「夢がかなえられるようにするため」、同時に「就職の際に損をしないためにも」ぜひ読んでください。

※この文書は館長本人の人生における各種の失敗や無知に対する後悔と反省の内容にもなっています。

### 《事前に述べておきます》

ここに書いてある文書の内容はとて現実的で厳しいものであるため、「将来に明るい夢を抱いている君たちに伝えてよいものか」また「君たちの保護者の承諾を得ないでこのようなこと伝えてよい年齢に達しているのか」とも不安な面があります。しかし志成館では「君たちにできるだけ早く強く立派な社会人になってもらいたい」「自分の将来を現実的に見ることが早くから出来るようになり今のうちから堅実な努力をしてもらいたい」という考えをもとに今日まで在館生に「世の中の本当の姿」を伝えてきました。この志成館の信念に沿って今回もこの文書を出しますので善意に解して読んで下さい。

尚、この文書の内容には職業についてのいろいろな事が書かれていますが、志成館の指導方針の前提となっている

「職業に貴賤（<sup>きせん</sup>尊いか尊くないか）はない、すべての働く人やすべての社会的に有用な仕事は尊重されるべきであり、すべての働く人は自分の仕事や人生について自信と誇りを持って日々を送っており、そのすべての行為は等しく尊重されるべきである」

という考え方をしっかりと理解した上で読んで下さい。

## 就職と学歴との関係

現在日本の経済状態は少し上向きかけたといわれていますがもやはり景気はよくないようで、大学生などが希望する会社になかなか就職できなかつたり、就職の面接やテストの際に、冷たくあしらわれたり不公平に扱われると感じることが多いという意見をよく耳にします。（※COVID-19不況がささやかれる2020年春以降は事態が厳しいものとなるでしょう）就職という人生のとても大切なことで悩んでいる若者達に対して私、達大人はできることなら精一杯の若い世代の手助けをし、できたらみんなが希望する仕事に就けたらどんなにうれしいことかといつも考えています。しかしグローバルゼーションという世界という舞台での競争で、現実はなかなかそのようにはいきません。ここではまず就職という出来事を高校生や大学生を採用する会社の側から見たらどうなっているのかを述べたいと思います。

### 会社側の事情

現在の日本の経済的な仕組みは自由な競争社会（政治的には自由主義社会、経済的には資本主義経済社会）ということになっています。そして世界中も多くが先進国や発展途上国の区別なく日本と同じしくみになっています。君たちがよく耳にする「グローバルゼーション」という言葉は「世界を単一の経済（市場）構造として把握し、世界中の企業や個人は自己の経済的利益を求めてその中で激しい競争する現象」をさすものなのです。将来には、今みたいな過酷な競争がなくなり、より人間的でのんびりした人生をみんなが過ごせるような社会（超高度福祉社会や理想的な社会主義や民主的な共産主義社会など）がくるかもしれませんが、ここしばらくはそんな時代が来るようには思えません。だからここでは現在の日本や世界の社会の仕組みを前提に話をすすめます。

そうするとこのような競争社会では、企業（会社を含めて広く事業をする組織を企業と呼びます）は、それがどんなに大きくて有名でそして安定した企業であっても、どんな小さないつつぶれるかわからないような企業であっても、またたった一人で経営している個人企業であっても、すべてが同じように、「自分の企業が競争に勝って長く繁栄しつづけるために」毎日精一杯企業努力をしているということがわかるはずです。君達に名前がよく知られている有名な企業ほど、もっとしっかりと名前を知ってもらうために莫大な費用をかけて新聞やテレビや看板などで宣伝をしていることから、このことは簡単に理解できるはずです。従ってどのような企業であっても当然のことながら、企業自身が発展し生き残るために、できるだけ優秀な若者を採用し、そして企業の中で人材を育成し、企業のために一生懸命働いてもらう人を求めていることが簡単に理解できるはずです。

**それでは日々競争にさらされている企業はどんな人物を採用するのでしょうか？**

- ① 仕事が早くたくさんできる人（事務処理能力）
- ② 協調性があるみんなと仲良く楽しく仕事ができる人（協調性）
- ③ 知識が豊富で専門的な技術を身につけて困難な仕事ができる人（専門的な知識）
- ④ 新しい時代やものの考え方にも粘り強くついていくことができる人（粘りや根性）
- ⑤ 体力があって欠勤などをあまりしない人（健康と体力）
- ⑥ 礼儀正しくて挨拶などがきちんとでき品がよく言葉使いも正しい人（礼儀作法や品格）
- ⑦ 創造力に富んだ人（創造力）
- ⑧ 元気な若者（覇気）

このような人たちを企業が採用するであろうことは簡単にわかるはず

逆に、次のような人物を普通の企業は採用しないと思います

- ① わがままで、思いやりや協調性に欠け企業という組織が円滑に運営できなくなるような人
- ② 仕事が遅く、ミスが多いために会社に損失をもたらす可能性が高い人
- ③ 漢字や簡単な英単語も知らないために仕事が覚えられない人
- ④ 英語などが全くダメで外国との取引のときに役に立たない人
- ⑤ すぐに仕事を怠け、会社を休んで遊んでしまうような、会社の組織的な仕事に支障が生じるような人

- ⑥ 暴力的で、下品で、不潔で、お客さんが逃げてしまいそうな人
- ⑦ 言葉使いがひどくて挨拶さえもきちんできないうために、取引の相手方や消費者を不愉快にする人
- ⑧ 愛無愛想で、可愛げがなく、細かいことに気が回らないような人
- ⑨ 人から言われたことをするだけで、自分から積極的に活動しようとならない人
- ⑩ 新しいこと、創造的なことが全くできそうにもない人
- ⑪ 体が弱くて病気になってすぐに会社を休む人
- ⑫ 体力がなくて厳しい仕事に耐えられない人たち

このような人たちは企業に採用されないであろうことは誰にでもすぐにわかるはずです。

基本的な前提として、企業はこのような立場で従業員採用の可否の判断をしていると思って良いと思います。この時点で「企業は冷たい」とか「非人間的である」などと言って批判するのは間違っています。なにしろ企業はグローバルな競争のなかで勝って生き残らなければならないし、さらに繁栄し、長く存続し続けることが第一目標だからです。就職の時にはどのような企業でも仕事を求める若者達に対してこれらのすべての側面をチェックしたうえで採用するかしないかの判断をしているのです。

就職を求める若者達にとっては、就職試験ほど残酷で厳しく、見方によっては非人間的な判断がなされていると思ってよいでしょう。しかしそれは採用される側の都合に過ぎないのであって、企業としてはそれ以前の事情があることは理解する必要があります。

加えて漠然と企業社会を批判し、誤った社会主義や共産主義の理念などから、もっと気楽な仕事や人生を望んでいるような愚かな怠け者に対しても、**百姓（＝最も原始的な産業である農業従事者）であることを誇りにしている森館長の立場から、資本主義社会であろうと社会主義社会であろうと、懸命に知力や体力を使い、努力をしないと豊かな生活は望めないの**であって、**「額に汗して働く意欲がない人間には生きる資格がない」と強く言い放っておきます。**

※ 実は今日2017年8月28日(月)も、朝6時から畑の草刈りをしてきて少し疲れ果てて感情的になっているのですが(笑)。

そこでです・・・

**ここから今回のASSETSの目的の最も大切なところに入ります。**

自分の勤めたい企業に就職するためにはどうしたら良いのでしょうか？

## 自分の就職したい企業に入るための条件 その①

まず企業はその人の「学歴」を見て採用するかしないかを判断する事を知ってください

企業は、その仕事内容の難しさや規模の大きさや仕事の危険性などからみて、一定の知識や技術がないと採用しない場合があるということを知っておく必要があります。例えば銀行や大手建設会社や薬品会社などの管理職(社員を指導する立場にある人)は仕事が難解で大規模で危険性が高いため、一定の能力や知識をもった人しか採用しないとあらかじめ決めていっているところがたくさんあることを理解してください。それではここで言う「能力」や「知識」とは何なのか、企業は何を基準にして会社に採用する人の能力や知識を判断するのでしょうか。

—ここからしっかり読んでください—

**普通の企業は、採用する人の卒業した「高校や大学の名前」を見て判断するのです**

就職を希望する人の卒業した高校や大学が、合格しにくい難関の有名大学か、点数が悪くてもだれでも入れるような平凡な大学かを調べて採用するかどうかを決めるのです。そして進学した大学がどれだけの人材を育ててきているか同時に参考にします。

**これが「学歴社会」と呼ばれている社会の実体なのです**

「卒業した高校や大学の名で採用か不採用かを決める学歴社会なんてひどい!!」などと言って、学歴社会を批判する人がたくさんいます。その考えも一面では間違っていない、人間の価値が卒業した学校で決まるわけではないからです。しかし、

**競争に勝ち抜いていけなければならぬ企業側は一体何を基準にして従業員の採用を決めたらよいか考えてもみてください。「その人が将来企業に入って役に立つかどうか」の判断の基準は「学歴」しかないのです。**

企業が生き残って繁栄するような人材しか採用しないのは至極当然のことなのです。

それではそのときなぜ仕事を求める人たちが卒業した「学校」の名前(＝学歴)で判断するのでしょうか？

それをわかりやすく説明しますと次のようになります。

日本の小中（高）生はみんなが学校で勉強している。しかも平等に。比較的制度が整った日本では、憲法26条の保障下で、義務教育の名前もとに、子供たちは「自分の将来を豊かにするための権利」として勉強している。親から勉強させられていると考えている「無知な大ばか者」もたくさんいるのですが、この平等な教育や学習の条件の中で、成績の良し悪しが生じるがこれはなぜなのか？ 本人の頭の良し悪しが原因なのか？それとも親の頭の良し悪しが原因なのか？ いや決してそうではない。もともとの生まれつきの人間の能力にそんなに差があるはずがないことは医学的にも証明されている。ということは学力に差がつくのは本人が「学習」という、与えられた「仕事」を一生懸命に頑張って努力したか、それとも怠けてきたか、によることから差がつくことが理解できるのです。中学生になってから、人によっては小学生の時から遊びも我慢して勉強したからこそ成績が良くなって一流と呼ばれる大学に合格できたのです。このように努力をして、成績がよくなって難しい高校や大学に入った人なら、きっと自分の会社に入っても会社で努力をして頑張ってくれる。この人が会社に入ってくると会社は繁栄する。「採用だ!!」となるのです。

つまり、

**「学歴」で評価されているのは「学校名」ではなく、その学校に入るためにしてきた「努力」なのです。**

このことがわかれば学歴社会の批判ばかりもできないことがわかるはずです。

## 自分の就職したい企業に入るための条件 その②

次に企業は「求職者の健康状態」をみます。

「体のここが悪いあそこが痛い」といってしばしば仕事を休むような従業員がいたら企業は成り立ちません。継続的に提供している企業の製品の提供ができなくなり、利用者やサービスを受けているお客さんや取引相手から不満が噴出してくるので、このような企業はあっという間に潰れてしまうでしょう。そこで当然「健康で体が丈夫な人」が優先的に採用されることがわかります。

※ 森館長が授業中に「勉強が得意でなくとも学校や塾を休まない生徒は将来仕事がなくなるようなこと＝収入がなくなって路頭に迷うことがないから、その生徒の将来についてあんまり心配はしていない」といっているのはこのことに対応しているのです。

学歴その他の条件が同じなら体育系の部活に入っていた人などが優先採用されるのはこんな理由からなのです。たとえば部活でサッカーや野球や剣道を何年間もしていたならどんな激務にも耐えられる体ができているにちがいないと判断されるのです。但し第2順位であることには変わりはありません。今の時代のようにすべてが機械化されコンピューターによってシステム化されている時代では、体より頭脳のほうが優先されることは仕方がないことでしょう。

（但し、主に体を使う肉体労働ではこちらのほうが優先順位になります。もっとも社会は全ての分野でロボット化やAI化が進んでおり、力がいる仕事はほとんどなくなっていると言えます。）

先天的に体に故障があり慢性疾患がある人は意外と多い。残念ながら企業はこういう人たちに対して採用を控えるところが多い。それでも最近では「会社は身体障害者を一定の割合で採用すべきである」という行政指導や立法がなされており、まだ不十分だけれども今日の社会は昔に比べると、身体障害者の採用などで就労希望者の差別をなくすという面では大変進歩したと思います。

## 自分の就職したい企業に入るための条件 その③

次に企業は「求職者の社会性や協調性」をみたくて採否を決定します。

みんなとうまくやっていけず、しょっちゅう隣人と争いをしたり仕事仲間をこまらせるような「わがままな人」がいると企業は困ったこととなります。それにたとえ個人的な特別な事情や予定があったとしても、ある程度は企業側の事情に合わせられる人でないと、企業みたいな「組織」は動かない場合が多いからです。「会社より個人が大切であり家庭の方が大切である」という考えは間違っていないかもしれませんが、しかしみんながそんなことを言っていたら会社はつぶれてしまうことは誰にでもわかると思います。

この点からやさしさや思いやりがある人やボランティア活動や部活とかによって協調性を育んできた人が選ばれるのです。ボランティア活動でもしようというハート(心)が選ばれるのです。部活で培ったチームワークが評価されるのです。

## 自分の就職したい企業に入るための条件 その④

次に企業は「マナー＝礼儀作法を心得、美しく正確な言葉使いをし、個人の外見」をみたくて採否を決定します。

例えば店舗を構えて日々お客さんに接する仕事ではいつも明るい笑顔で元気に働かないとお客は集まりません。君達も店員が不親切で無愛想な店には行きたくないはず。最近では技術が優先される医師でさえも、人当たりがよ

く面倒見が良い医師でないと大病院では採用されないと言われています。患者が来なくなったら病院もつぶれる時代なのです。

そしてこの段階で行儀作法が出来ていない人はダメ、マナーが悪い人はダメ、いつもだらしない服装をしていたり下品な言葉を使う人はだめだということになります。言葉使いが幼稚であったり、動作が粗雑であったりしたら不採用になります。実際就職試験の時の面接ではドアのしめ方ひとつで試験に落ちてしまうのです。

※ 森先生が普段から「礼儀が正しく思いやりがあってやさしい人は人生でいろいろな面でいいことがあるだけでなくそのことがお金になって帰ってくるよ」といっているのはこの条件③や条件④に対応しているのです。

その他いろいろありますが、このあたりまでにしておきます。

以上の結論をもう一度列挙します。

- ①勉強が就職のときに自分が希望する会社に入るためにはどうしても勉強をしっかりとっておかないといけないということ。
- ②健康な体を作りあげることが大切なこと。
- ③日ごろから協調性がありみんなから尊敬されるような立派な人間になるという努力が必要だということ。
- ④言葉づかいや身だしなみや行儀作法がきちんとしていること。

※ 「学歴」による差別について、実際に館長が学生だったころ経験したことを話します。ずっと昔のことで今はこんなことはないと思いますが、ある意味では今から振り返ると、「夢のように景気が良かった日本」の思い出話でもあります（笑）。

「ある日館長は友達と数人で一緒に、遊び半分で、ゲタをはいて、当時のある大手の銀行の就職説明会に行ったことがあります。その時は、まずお茶が出たあと、「ぜひわが社に就職してくれ」と勧められたうえ、その日のうちに「夜の飲食の接待」まで受けました。（九州大学の経済学部生でもこれくらいしてもらえたのです。ましてや東大や京大その他がどの程度の接待を受けるかは容易に推測できようと思います。）」他方で「その場にいた難易度の低い別の大学に通っていた友達は、採用試験の説明を受けたあと後日試験が実施され、そして冷たく落とされました。」一方では「お茶と夕食付き」無条件合格、他方は「テスト問題付き」無条件不合格というひどい差別があったのです。また会社によっては、広く大学生を求めるかのような就職試験を実施してはいますが特定の大学生以外からはじめから採点もせず不採用と決めている大学もあるのです。これは今もあまり変わっていないと館長は考えています。現在「企業へのエントリーシートで一次審査をする」仕組みはある意味では親切で公平な方法なのかもしれません。好況であれ不況であれ、50年近く前の館長の時代も今の時代もこれらの点は基本的には何も変わらないのです。

このようなことにつき「企業というところはひどいものだ」と批判はできないということは上述の通りです。いわば「まと外れ」な批判だからです。何度も繰り返しますが、企業というものはそもそも最初に述べたような厳しい競争の場に置かれているからこういうことがあっても仕方ないのです。企業側そのものは、社会に存在し続けて、一定の重要な役割を果たし、国民生活を豊かにし、同時に自社の利益を上げ続け繁栄していかなければならないし、そうする権利があるのです。企業をつぶすわけにはいかないという要請がどうしても働くのも当然なのです。仕事を求めている若者の人間性が、会社側の要求に合致しているかどうかの視点でしか評価されなくても、何らおかしくないのです。

以上のことを理解した上で就職したい会社があったら、上に列挙された条件を満たすよう努力すべきです。そうすればどの会社でも就職できます。いったん希望する会社に入ると、その「会社という大きくて強い組織の中で、会社のもつ力を自分のものとして利用しながら、自分の夢や希望を実現できるようになる可能性もある」のでとても楽しいし、大きな会社だと自分がとても強くそして偉くなった気がしてくるのです。そして会社は悪いことをしない限り（笑）組織の力で従業員を守ってくれるものなのです。

- ※ しかし好きな会社、大きな会社に入社できたからといっても安心はできません。わがままで協調性がなかったり、すぐに怠けたり、新しい時代に必要な知識や経験を都市と共に身につけていかなければならない限り、会社内部での競争に負けてドロップ・アウト（落ちこぼれ）することになります。
- ※ また、会社でそれなりに出世するためには、働き者でなければならないし、面倒見が良い人でなければならないし、謙虚な人でないといけないし、難しいことですが、「社内での人間関係の処理」も上手でないといけません。
- ※ 現在森が知っている九州を代表する財界の大物の人は、本人の努力と奥様の協力があって初めてその地位を得られたと尊敬しているのですが、それ程の大きな苦勞も必要なのでしょう。
- ※ あなた達のお父さんやお母さんは、普段、企業の職場の中で、あなた達受験生以上の大きなストレスを抱えて仕事をしてある場合も多いのです。あなたたちを育てるために不平や不満を漏らさずに懸命にがんばってあるのだから、あなたたちもできるだけ親には心配かけないようにして欲しいと思います。もちろん親だから、多少は甘

えても良いでしょうが。

※ 館長の判断だと、館長の友達で出世している人はたいがい、館長より立派な人格者でありことが多いように思えます（笑）。だから館長は現在もその人たちの生き方をお手本にして生きているのです。

次に「**学歴社会などというこんな馬鹿な社会が許されるものか!!**」と怒っている人のために話を移します。

が、その前に一息入れて「**特殊な才能**」と「**コネ**」について少し述べてみます。

### 「特殊な才能」とは

就職や進学の時などで友達の中には「本人の学力や学歴はたいしたことはないし、会社の仕事に関連した能力が特に優れているわけでもないのに、なかなか合格しにくい会社に簡単に就職していく人」がいることがあります。その場合には本人に特に優れた部分（たとえばオリンピックで金メダルを取ったとか、外国での生活が長いから外国語に堪能であるなど）があるか、本人の知名度が特に高いかが決め手になっていることがよくあります。これが「**特殊な才能**」と呼ばれるものです。いろいろな理由でいろいろな人が優先的に会社に採用されているようです。中学生や高校生である君たちには「部活でがんばって、県大会ですごい実績を持っている人」などがここに該当します。その点では部活で、ここを狙ってがんばっている人もいるはずですし、それもよいと思います。

ただ次の事実は知っておいてください。①企業が不景気になったときに最初にリストラされるのは部活等で企業に入社した人からだということ。この人たちは会社に入り会社の中で部活をすることによって主に「会社の宣伝に貢献してきた人たち」なのですが、リストラされるときに会社からこういわれます、「あなたたちは会社に入って仕事を余り覚えてないし、仕事時間も短く、好きなことをやってきて楽しんだのだからリストラされても不満はないでしょう」と。②「特殊な才能」というものは意外と日持ちが悪くブームが去ると忘れ去られてしまい出世もなくなってしまうことも多いみたいです。当然のことながら企業の方針にもよります。

だから「**特殊な才能**」はなくてもなんらかまいません。

### 「コネ」とは

次に「コネ」についてすこし。「コネ」は粘土やぬかみそをコネくりまわす（笑）からコネというのではなく、**英語のCONNECTION（コネクション＝つながり）からきている言葉**です。就職の場合におけるコネとは「採用する企業と就職しようという者の間に特別の人的、物的なつながりがあるためにそれを利用して、就職が容易になる場合のこと」をさします。普通、両親や親戚の人が会社の取締役クラスであったりその友人であったりする場合が多く、次には国会議員や県会議員の人たちの人脈を前提とした政治的な力による場合が多いのです。そんな時は会社に強い影響を与えるというその人の会社での立場や政治的な力や金銭的な力で採用不採用が影響を受けることがあります。このようなことを「**コネを利用して就職が決まる**」というのです。まったく不公平で到底許されないことだと普通の人は考えるでしょうし、そのように考えておいてよいでしょう。

こんなコネはなくて当たり前です。コネがある友達などを絶対に羨ましがってはいけません。コネで就職したために仕事で行き詰まるということもよくあるのですから。そもそも「**他力本願**」はあまり勧められません。それに最近の不景気な時代では、コネを使って親せきや友人などを採用してやった人への批判が強くなり、入社させてあげた側の人の方が社内で危機に陥る可能性が高いので、安易に頼りにするべきではありません。政治家と企業人はつながっているために、政治家を利用して、そのコネで入社させることは現実的であり、可能なことなのですが、それ以上に選挙の時などには徹底的に利用され、仕事上での脅しも受けますよ。

そうはいっても将来就職などの時に「コネ」があったら自分の利益のためにそれを利用してかまわないと思います。しかしそもそもコネを使うことは反則行為なのでこんなものは期待しない方がよいし、コネなんて自分には関係ないと考えていた気楽でいいでしょう。まして「コネ」がないからといって両親や自分の運命に苦情を言うなどはもつてのほかです。またコネを持った友達を決してうらやましがらないことです。コネを使ったがために逆に将来が台無しになってしまうこともよくあることなのです。この点の内容を具体的に知りたかったら、アメリカの連続テレビドラマを見るのがわかりやすいと思います。（笑）。

（挿話）ずいぶん昔の話ですが、「あなた達に真実を教える」ということで先生の経験を述べます。ある年の有名会社の採用試験で、ある大学生の就職試験での不合格通知が来た後で、不合格者の両親がある事務所にやってきてどうしても合格させてほしいという話になり、事務所のおえらいさんが地元選出の国会議員に連絡してどうにかできないかということになり、国会議員の努力によって最終的には合格になったことがあります。お礼に大きな鯛が届けられ

ました。鯛は上質の紙製であつたりして(?)。この場合、本来合格したはずの人が不合格になったわけで、その場に居合わせた館長は、当時は、実は今でもまだ(笑)わりと純粋な青年でしたので、あまり良い気持ちはしませんでした。今の時代こんなことはあまりないことと望みます。しかし君たち「心が純粋でまともな人たち」が就職の時に傷つかないように、世の中にはこんなこともあることを知ってほしいと思ってここに載せました。お許しを。

君たち若者は以下のことを今から長い間心の中に刻み込んでおいてください。

若者はいつでもどこでも正々堂々とたたかうことが大切です。たとえしばしば敗北することがあっても、前向きに生きている限り、チャンスは次々にやってきます。

※館長が高校入試の際に「推薦など受けなくてよい」といっているのは実はこの部分とも関連しているのです。

さて、話を先ほどのところに戻して「**会社なんかに就職してやるものか!!**」と考えている人のために次の話をします。

## 民間の企業に就職する以外の選択肢

多くの普通の人は何らかの会社に入ることが多いですが、別に会社に入らなくても自分で仕事を始めたり家の跡を継いだりスポーツや芸術の世界で生活してゆく選択肢があります。また会社に入った後自分に力をつけその後で起業するのもよいでしょう。

## 自由業について

弁護士、医師、公認会計士、建築士を筆頭にいくつかの「士=し」の名前がつく自由業はとても人気があります。好きな仕事が格好よく出来て、自由な時間があって、収入もよく、多くの人がそれなりに尊敬してくれそうな仕事であるからです。学者の人もカッコいいと思います。

「しめたこれだ!こんな仕事を将来はやってみよう」という気になりませんか。テレビの「法律相談の番組」や「専門家の意見」などのコーナーを見て、誰でも一度はこんなこと考えることもあるみたいです。

しかしこれらの仕事をするためには次のことが必要であるということだけは知っててください。

### ① 就職試験とは比べものにならないほど勉強しなければならないということ。

日本一難しい大学は東大の医学部ですし、九大でも医学部にはなかなか合格するものではありません。ついでながら「私立の医学部を出て医者になるには大体5000万円ほどかかります。通常の家計では破産する金額です。だから普通の過程では「医学部は国立大学しかない」ということも。そしてどうしても医師になりたいなら2浪3浪もいとわれないことです。志成館の先生をしてくれた福岡高校の卒業生は4回浪人して九州大学の医学部に合格して立派な医師になった人もいます。また弁護士や裁判官や検事になるためには2005年実施の司法試験でも大学卒業後平均7年間の学習をしないと合格しませんでした。(合格平均年齢は29歳以上です)今は比較的簡単になれます。(試験の制度が変わったことと、伊藤真先生が作られた優れた教材がでて、とても盤狂しやすくなったことが挙げられます)

### ② 技術を身に付けるための苦勞が多いこと。

大学に合格した後も、大学院に進学して修士や博士の資格を得る必要があり、仕事についた後も長い時間をかけて専門的な知識や技能を身につけていかねばならないこと。(これはどんな仕事でも同じですがレベルが高いために楽ではないということです)

### ③ 仕事そのものは決して楽ではないということ。

医師は病人相手の仕事なので体も心も疲れる仕事です。弁護士は言い換えれば「示談屋または法律上のけんかの代理人」の面があり、事件に真子込まれて命を落とすことだって当然に考えられます。従ってそこでは「世の中で強い者にいじめられ、ひどい目にあっている人を命をかけて助けてやろう」とか「ガンを征圧して世界中の人を救ってやるのだ」というような仕事への情熱や奉仕の心がないとできない仕事です。カッコイイとか収入が多いからなどという理由だけではできる仕事ではなく、想像以上に大変な仕事と思っておいた方がよいということを知ってほしい。当然、頑張る価値もあります。

(挿話) これも先生の実験の経験から。①ある時友達の医師ら数人とビールを飲んで夜遊びして楽しく騒いでいる時に、一人の医師に電話がかかってきて、「先生の患者が死にかかっています。至急もどって来て下さい。」という連絡があり、その友達は慌てふためいて帰っていったことがあるのです。病院に帰ったのはいいけれど、酔ったままでちゃんと手術はできたかどうかはあとでは聞けなかったので知りません。②またある医師は「僕は数人の患者しか



殺していないがひどい医師になると手術の失敗で十数人殺しているよ。」とのこと。冗談ばかりではないと思います。しかしこのことで医師を批判することはできません、彼らはその数百倍の命を救っているのですから。医師とはこんなに責任がある大変な仕事だということを知ってほしかったから述べたつもりです。

## 自営業について

農業や漁業、うどん屋、パン屋さんやケーキ屋さん、大工、左官、機械の整備工場、保険の代理業、コンピュータの仕事、ネット関係の仕事、アニメの仕事、ブティックなど 具体的に仕事の名前を挙げると数千にもなってしまうほどたくさんの自営業者がいます。「その仕事に必要な程度の専門的知識や技術」がある限り高度な学力や学歴もとりにあらずには必要ないものが多いし、わがままな性格や頑固な性格であっても自由に働けるので、仕事には直接的な影響はあまりありません。館長はもともと「農民」なので、自営業で生活できたならそれにこしたことはないと思うことがよくあります。農業は「最も原始的な産業」なので、「最も人間らしい仕事」「最も自分らしく振舞える仕事」と言えるのかもしれないからです(笑)。また両親が自営業の場合など、自分も後を継いでいっしょに楽しく仕事をしようと思っている人もいます。

## この自営業の長所は

- (1) 自分の信念や好みに従って自由に仕事ができる。
- (2) したがって人間関係などであまり悩まなくてマイペースで仕事してもよい事になる。
- (3) うまくいくと短期間にまたは長い間のうちに大きな財産を築くこともできる。

## しかし自営業にも短所がありますので理解しておいてください

- (1) 自分一人が頼りだから仕事は大変である。病気をしようものなら収入が全く無くなることもあるし、景気が悪くなると長年の貯金もすぐに無くなってしまふことがある。
- (2) 時代の変化についていけないといろいろな面で取り残されてしまい結果として収入の道がなくなることがある。
- (3) したがって自分の仕事について時代にあった独創性を求められることが意外と多く見た目より苦労が多いこと
- (4) 会社に入るよりももっと愛想よく、言葉使いや礼儀作法がきちんとしていないと収入が確保できない仕事が多い。
- (5) 1日中仕事をする時があると思つてよい。誰でも参入できる仕事の場合は競争が想像以上に激しいこと。
- (6) 働いても働いても無収入で、「じっと手を見る(啄木)」ことがある。農民そして塾の自営業者である森館長が実際に経験してきたことでもある。
- (7) どんな自由業も意外と専門知識が必要とされる。そのため勉強している人ほど収入が多い傾向もある。

しかしどんなに大変でも、好きな仕事を、楽しく、自分の理想に従つてできるのがこの仕事の魅力である。

## 公務員について

次に県庁や市役所の地方公務員、省庁の国家公務員や広く公立学校の先生、警察官や消防士などの公務員について

県や国がつぶれることはないし、景気や不景気の影響も受けにくいし、今の時代では収入も悪くはないということで将来は公務員になろうと考えている人も多いのではないかな。確かに仕事の安定性とその結果もたらされる精神的な安定感については群を抜いているかもしれない。それに「不景気」な現代では、公務員の年収は民間人の年収をはるかに超えている。COVID-19が蔓延しても、公務員は影響を受けていない(2020年5月)

しかし次の諸点は今のうちから理解してほしい

- ① 高級官僚になって出世するにはやはり東大の法学部に入っておくのが一番であるということ。東大でなくともそれに近い学歴が必要とされる。だから勉強は大変である。数年前に志成館で教えていた先生は幸いなことに九州大学の経済学部からこの試験に合格したよ。恵まれた環境で優雅に仕事をしています。
- ② 県庁や市役所でも採用試験が相当に厳しく、福岡県で上級職に合格するためには大学に通いながら公務員試験予備校などに通わないとなかなか合格しないということ。少なくとも九州大学程度の大学に進学していないと合格

はなかなかできないと考えていた方が良い。最近では志成館がある小さな新宮町でも採用試験はとても厳しいものになっています。九大くらい出ていないと、管理職としての就職試験には合格できない。館長のころは、町長が親戚だったこともあって、「町の職員になりたいならいつでも採用してやるよ」というのんびりした時代でした。

※福岡県や福岡市で公務員になりたいのなら、たとえ上級職の受験資格があっても、中級職を狙うことも可能であり、そのためには、「できたら九州大学程度の大学に進学してほしいし、少なくとも西南大学程度以上に、**例えコネがあったとしても(笑)福岡大学以上に行ってほしい**」といつも館長が言っているのはじつはこととの関係からなのです。

- ③ 中学や高校の先生になるための資格そのものは、大学に進学すれば、教育大学でなくとも、単位さえ取れば、簡単に資格が取れます。その後教育実習に出るのですが、しかし「現実に県や市町村の教員採用試験に合格するのは相当に厳しく」、いろいろな塾で教えている先生の中には教員採用試験のための就職浪人しながら働いている人がよくいます。あなた達が「学校の先生をどの程度尊敬しているか」は知りませんが、学校の先生は、中学や高校の時の成績がとても良く、まじめな努力家であった事は明らかなのです。つまりエリートなのです。

※ 総じて、公務員になるのは簡単ではありません。「学習塾の存在理由」も、もとはと言えば「今日のような不況の時代にも強く、安定した生活を維持するために公務員になることを最低限度の保証とするための学力をつけるためだ」と言っても言い過ぎではないのかもしれませんが。小学校高学年から友達に負けずに頑張っておかないとなかなか公務員の上級職には合格できないと思っておいてください。

(別紙志成館資料集で、「大学卒業生の就職先」を参照してほしい)

- ④ 上級職ではなく、中級職や初級職の公務員の競争率はとても高いが試験そのものはそんなに難しくはありません。しかし、国や地方公共団体の財政状態が厳しい時代には、職員の採用がゼロだったりしてどうしても時代の影響は受けます。警察官や消防士も楽に合格できるわけではありません。今のうちからしっかりと勉強しておかないといけなし、中学時代に素行が悪かったり、いじめをしたりしてそのデータが残っていたら合格はできません。また小さな町や村の職員になろうとする時などで採用人数が少ない場合は「コネ」＝人脈がないと合格は不可能だと正直に知らせておきます。館長の時代遅れの独断だと解されてもかまいませんが、これが内実なのです。また仕事は安定しているといっても、公務員では大金持ちになれることはありません。もし豪邸を建てて優雅に暮らしたいと思うなら公務員はやめたほうが良いと思います。

また公務員は憲法15条にいう「全体の奉仕者」であるために、生活態度もきちんとしておかねばならず、その面でのプレッシャーも相当にきついのです。学校の先生がしばしば問題を起こして新聞などに載るのですが、森先生は、彼らに同情したい時がよくあります。まじめな性格の人には向いている仕事なのでしょうが、それでも館長は、個人的には「教育ほど素晴らしい仕事はない」と若い時から考えています。

## 以上です

中学生であるあなた達の現在の日々の学習が将来の就職や職業選択に重要な意味をもっている事が少しは具体的にわかったと思います。実はあなた達のお父さんやお母さんは、この職業全般の事情を十分に知っておられるのです。そのために、小学校の高学年から高校にかけての学習で友達に負けないように君達の将来のために「頑張れ!!」「しっかりと勉強なさい!!」と励ましつづけているのです。有難いと思わないかい。うるさいと感じる時のほうが多いだろうけれど、「親から子供への最大の愛情ある行為である」と解してください。

## 志成館では・・・何度もの繰り返しになります

ところで志成館ではこのような学歴や就職や学習の問題についてどのように指導しているかわかっているかな。

『職業に貴賤はない。だから自分が好きでこれならやりがいがあるし自分に向いていると思う仕事であればどんな仕事でも自信と誇りを持ってすればよいのである。小学生や中学生の段階では自分の将来のことなどわからない思う人はそれが普通の中学生のだからとりあえずはそれでよい。高校生や大学生になって決めればよい事だから。しかし**あなた達が将来、「こんな仕事に就きたい」とか「こういう人生を築きたい」と思ったその時に、「それになることはもはや手遅れで不可能である」というような状況にならないように、今のうちからしっかりと目標を立てるか展望を持って勉強などをしておく必要があることを理解しておいてください。**あなた達のお父さんやお母さんそして保護者のすべての人たちはそのために必死になってあなた達を応援しているのです。塾の先生もその事について少しでも助力ができればいいと思って頑張っているのです。』

あなた達のお父さんやお母さんたちに代わって森がひとこと言っておく。

子供が可愛くなければ、どうして塾なんかに通わせて、勉強させる必要なんかあるのか。  
We know the life. So we say this or that to you, because we love you.

※最後に繰り返しますが、中学生時代や高校生時代に勉強をあまりしないで、その結果誰でも行ける高校や大学に通っておきながらいわゆる「一流会社に就職しよう」などと考えたり「学歴による差別がある」などと批判をするなんて身勝手過ぎるのです。自分に合った仕事がないと嘆くのは的外れなのです。中学時代に英語をいい加減にしていて外交官になりたいとか公務員になりたいなどと言う資格などないのです。

話が長くなるので以下は読まなくてかまいません。

## 「勉強そのものの価値」について

以上は、あくまでも「就職と学習との関連の話」です。

「**学習そのものの価値・尊さ**」については以上の記述の中では何も言っていません。

以上のこれまでの文章を読んだ後で、志成館のホームページの中での「**学ぶことの大切さ**」のところをぜひクリックして読んでください。付け加えておきたいのは上記のこと以上に、勉強そのものが楽しい人間の活動であるし、就職とは全く関係なしに勉強は君達一人一人をととても豊かにし、立派な人間にし、今後の君達の人生をととても楽しく素晴らしいものにするものであることをわかってほしいということです。

志成館は新聞の折り込み広告などで「どの高校に何人合格した」とか「どこの高校がいい」とあまり言ったり書いたりしないように心がけています。宣伝のため必要なことは載せていますが、他方でよく「勉強すると釣りや映画や音楽や料理でその知識が利用できるので勉強はととてもやりがいがあるよ」「旅行などもとても楽しくなるしショッピングなどでも得する事が多いよ。」と言っているのが目にはいると思います。

つまり志成館は勉強そのものがとても大切だし、とても価値あるものとの考えており、そのため日々こつこつと頑張っていかなければならないという考え方をもうひとつの大切な指導方針としてとっているのです。むしろこちらの方を優先しているといってもいいくらいなのです。わかりやすく言いますと次のようになります。

勉強は、決してお金もうけや出世のためだけにしているのではなく、むしろ自分自身を豊かにし、人生を楽しくし、生きることの尊さを知るために必要である。だから一生懸命に勉強しているのである。

この方針で君達に授業を教えているのです。このような考え方は別に特別のものではなく、教育ということを真剣に考えている、本当に教育が好きで、先生という仕事が好きな人の多くがこのように考えているのです。今日の偉い学者の先生達にも共通した考えでもあるのです。

ASSETSや社会科見学での経験や、よい映画をみたりロックであれクラシックであれいろいろな上質の音楽を聞くこともここでいう勉強なのです。かの偉大な福沢諭吉は「学問のすすめ」の中で勉強すればお金もうけができ出世ができるという面を強調しすぎたために功利主義（＝金もうけ主義）の考え方だとして批判されることがありますが、志成館では、福沢諭吉の指導方針は間違っていないが現代ではもはや古すぎるとしてあまり高く評価はしないようにしています。どちらかという勉強そのものにととても価値があるということ意識して指導しています。勉強って楽しくありませんか。もしテストがなかったり、実験や社会科見学や映像中心の学習だったらだったら、もっと楽しいのですが、そんな時代にしたいと思いませんか。

しかしこのような指導をする志成館も

**進学や就職のための「学習」に負けることは認めません!!**

**高校や大学入試は人生でも確実に「勝てる戦い」なのです!!**

**全てが「自分自身との闘い」なのですから!!**

### 長い話(笑)の終わりに

わかったかな? 勉強そのものはとても重要であるし、楽しいし、日々の生活を楽しく豊かにしてくれる。そうである以上毎日頑張らねば。そしてそういう気持ちで日々勉強をすれば成績があがるに決まっている。そしてその頑張りが最初のほうで述べたように好きな会社への就職や自分で好きな仕事を始めるという結果を導き、お金もたくさんもってきてくれて有名になって尊敬もされるというおまけをつけてくれるのだったら、これほどうれしいことはないと思わないかい?

今の貴重なチャンスは待ってくれない!! 今の戦いはすぐにあっという間に終わってしまう!!

## Time Flies Like An Arrow.

光陰、矢の如し!! 歳月、人を待たず!!

さあ 毎日精一杯、コツコツと、粘り強く 頑張ろう !!

2007年5月10日

2017年9月10日

2020年5月17日

志成館

改訂

一部訂正

館長

森 英行

以下は2020年3月の、志成館の「新年度の保護者説明会」での、館長の挨拶文です。未校正の荒っぽい文章ですが、就職と、成績の関係がわかるはずですので、付け加えました。

### 「学歴社会の概略と必要な成績」

2020年3月15日の保護者説明会から

学習塾 志成館館長

森 英行

本日は学習塾志成館の説明会にご出席していただき、大変ありがとうございます。

子供たちが学習に勤(いそ)しまなければならない理由には大きく二つあると思います。一つは、学習の本来の目的であり、幅広い知識と教養や感受性豊かな心を身に付け、ある時は人生を楽しみ、ある時は自分の信念のために闘うことができる、責任ある大人に育っていくという側面です。もう一つは、市民革命以降から現在まで続く資本主義社会というグローバルな競争社会で、とりわけここ30年間における新自由主義思想や経済理論がまかり通るような厳しい競争社会で、どのようにして勉強をし、どのようにして自分が納得できる仕事を得、どのように財産を築くかという、生活全般における経済的な基盤を形成という側面です。

志成館では新聞の折り込みチラシやホームページなどで、上掲の最初の方を強調することが多い塾です。「本来の目的」と呼んでいるのは、戦後の最高の法律とされる「教育基本法の理念」に従った考え方であり、志成館はそれに従った教育指導をしているからです。しかし今日の説明会では、後者についての話を致します。元来学習塾は後者のみを目的としているところが多いので、その意味では多くの保護者や子供たちが考える、「学習塾本来の話」ということとなります。

## 【概略】

- (1) 世界中が「学歴社会」であること  
※世界ではハーバード大学等日本では東大や京大のブランド力  
※大人の社会での学歴による差別は実にひどいものです
- (2) 大学と企業とのつながり 世にいうコネ（クシヨン）の問題  
※50年前の館長の学生時代から何一つ変わっていない就職のシステム  
※九州大学の森田先生の話 館長のころの景気が良かった時代の話  
※大手企業の「就職説明会」や「就職試験」はやらせの面があります。形だけ実施しているということで、合格者は事前に決まっているということです。だから全戦全敗の生徒が出るし、将来を悲観した学生が自殺することがあるのです。悲しいことですが、そのことを知らない学生が多いことも志成館が ASSETS などに力を入れている理由の一つなのです  
※但し、この部分は、「日本式のやり方」という面では変わる可能性があります。新しい時代の新しい企業が世界中に生まれ、新しい人材を求めているからです。
- (3) 企業は自分の会社が儲かる人間しか雇いません というのは会社とは利益を上げるのが使命だから  
※企業は会社の利益のために身を粉にして働く人材を求めている だから厳しい受験を勝ち抜ける我慢強い人間を、受験の難易度で選んでいるのであるのであり学校の名前で選んでいるわけではない
- (4) 競争社会がいやだったら、公務員か自営業ないし自由業かを選ぶことになるであろう  
※しかし現在の日本では、公務員試験に受かるのはとても厳しい  
※自由業は資格を取るのがとても難しい  
※自営業を失敗すると自殺するしか方法がないほど追い詰められた人生になる
- (5) 結局は会社に勤めて働く方が安全であると言える、とりあえずは  
☆☆☆ したがって今日は「将来は会社に勤めるであろう」生徒さんを前提にして話を進めます。

★☆☆尚、難解なある立場の経済学理論からの見解になりますが、「就職」とは「自分の持つ労働力という商品を会社に売ること」になります。ですから出来るだけ高く売る必要があります。つまり多種多用な知識を身に付け、特別の専門的な技術を身に付け、自分という「商品」を磨いて＝特別の付加価値をつけて、高い値段で自分を売る＝好条件の会社に就職することをめざしてください。

★☆☆更に難解な話になりますが、実は自分の「労働力という商品」を売っているときに、「自分の人格」も企業に売り渡しているのです。つまり個々人が備えている思いやりや優しさまでも、企業の利益のために売り渡しているのです。このことが今の社会が生きづらい根源的な理由なのです。最近多くの人たちがボランティア活動に興味を持っているのは、お金とはかわりがない「人間の誇り」がその中に見えるからなのです。学問的には「疎外論」の分野になります。つまり「生きづらさ」に関する社会科学理論です。塾に並べている内田樹さんの「生きづらさ」についての本も、このような視点に立脚しています。

★★★・・・昔の大学生の多くがこのような勉強をしていたのですが、今の若い学生はお金にならないこと（＝就職にプラスにならないこと）は勉強しようとはしません。だから日本の国の「大学」の世界的な地位は下がり続けている側面もあります。私が、「最近の東大生はバカばかり」というひどい言葉を使う真の理由はここにあります。  
・・・このような館長のメッセージが理解できる生徒さんを育てることを目指して、日々努力しています。（笑）。

## 【具体的な学習の目安をどこに置いておくべきか】

- (1) **学歴社会が変わらない以上、就職競争で勝つためには、自分の希望や夢を実現させてくれる「大学」へ入る必要があります**  
つまり将来の就職や仕事のために、「大学進学は譲れない＝妥協ができない」のです  
→ある程度の大学に進学しないと、希望の会社への就職はできないのです  
→「浪人を覚悟の上で希望の大学へ」・・・これは修猷館高校の入学式での校長の挨拶と同じです  
→しかも、大学では自分の就職したい業種の「学部・学科」に入り、なおかつ自分の望んでいる企業とつながりのある教授の「ゼミ」に入ることも必要になります  
→尚、上の文は管理職（ホワイトカラー＝社長になる可能性がある立場）を前提としており、現業職（ブルーカラー）で

は高学歴が要求されません。しかしできることなら同じ会社でも、機械と同じように働かされ、社長になれないブルーカラーよりも、給料が高くて将来は社長になれる可能性がある管理職＝ホワイトカラーになりたくはありませんか？もっとも、「たとえば、宮若市のトヨタレクサス工場の3交代勤務で働いて、休みは魚釣りを楽しむ」などというブルーカラーの方が気楽な側面もありますが。ちなみに「カラー＝color」は色の事ではなく、「襟＝えり＝collar」の事です。

## (2) 希望の大学に合格できるための「高校時代に必要な成績」

→なおかつ、「全国トップ9の旧帝国大学レベル」以上に入るには福岡高校で100位以内、香住や宗像や新宮では5～20位以内に入らなければなりません。志成館が大学受験の勝者としている、全国の「47都道府県にある国立大学」に入るには福岡高校で180位以内、香住や宗像や新宮では30～60位以内に入らなければなりません。400人余りの3年生⊕浪人の合計人数の中からですよ。

尚、私立大学は3科目なので、早稲田でも慶応でも、文科系は数学を外せるので合格は簡単です。

→昔の話になりますが、館長は福岡高校在籍時に、どんなに勉強をしても100以内になかなかは入れませんでした。苦い経験です。おかげで浪人をしたのですが、それ程厳しい競争社会です。

→ですから「高校に入った後で勝負出来る(＝伸びる)生徒を育てること」が塾の責任になります

→志成館では第4学区の公立トップの「福岡高校」に合格しても有頂天になったり、自分が頭が良いと勘違いしないように戒めている理由がわかっていただけかと思います。

→いくつかの塾が高校の合格者の氏名を公表していますが、多くの生徒がそのことを恥ずかしいと感じる時が、半年もしないうちにやってくるのです。福岡高校に合格したものの、香住丘や宗像そして城東や九州高校の得心の生徒に負ける生徒は多いのです(泣)。これが現実なのです。

→他方で城東高校や九州高校に進学したとしても、学校でのトップレベルの生徒がいる「特別進学クラス」で頑張れば、福岡高校に進学した生徒に勝つことも可能なのです。

※ 志成館は常に人生の裏側を正直に教える、良心的な塾なのです(笑)

※ 現在のテレビを中心とするメディアや、企業の営利主義社会、果ては学校そのものも、人生の裏側を教えようとはしません。だから大人になる過程で現実の厳しさに出会って、壊れてしまう青少年少女たちが多いのだと思います。

## (3) 希望の大学に進学するには「大学入試で勝てる高校」へ入らなければなりません

→受験戦争の本当の勝負は高校になってからなのです。ですから中学生時代には、高校になってから勝てる頭脳を作らなければなりません。まだ「伸びしろ」がある、ゆとりのある頭脳です。

→小学生から良い成績をとり続けていても、ここで伸びなかったら悲しいことになります。

→データとして、大学進学時の平均の実績は、久留米附設も修猷館も福岡高校もほとんど変わらないのです。合格者の割合はほぼ45%です。久留米附設などは東大や医学部が多いのでとても良い結果を出しているように見えます。しかしそのデータには残りの55%が入っていません。意味が分かりますか？

→久留米附設から東大に進学した館長の友人の言葉なのですが「久留米附設には受験戦争で負けた屍(しかばね)が累々としている」「小学校や中学校の天才なんて価値がない」という言葉は正鵠(せいこく＝ただしめ)を得ています。

→それ程どの高校でも多数の落伍者がいるのです。しかしここで勝たなければならぬのです。

→この文書で何度も述べていることなのですが、そのためには、まずもって中学生になったら、日々こつこつと勉強する必要があります。

→しかし、ポイントは、高校になって疲れ果てて、成績が伸びないようにならないように注意することです。つまり、「中学生3年生までは余り焦って学習してはいけない」ということとなります。しかしこのような指導はとても困難になります。

→志成館では、福岡高校に合格できる生徒(受験指導のプロである私たちから見ると、中学3年生になった時の成績と学習に対する姿勢で、福岡高校に合格できるか否かは簡単にわかります)に対して森館長は「そんなに勉強しないで良書や歴史映画などを見る方が大切である」という指導をしています。

→とにかくにも、志成館の館長や副館長が教える教材や授業のペースについていき、なおかつ「これだけは暗記しなさい」ということを暗記し、更に「高校ではこうするのですよ」ということを守れば、誰でも九州大学レベルには合格できるのです。何しろ自宅の農業の手伝いが忙しかった森館長でも九州大学に合格できたのですから、誰だって合格できるはずなのです。自慢じゃないけど、館長も頭は相当固い(＝悪い)よ。

→「国語の便覧」と「年代暗記法」と「英単語1800」は中学時代にすべきでしょう。

- ★過去に志成館で預かった新宮中学のトップの生徒が、定期テストの時に、常に学年でトップになることを目指していた時に、館長は「そんなに勉強しなくてもよい」と言っていたものの、聞き入れてくれない生徒がいました。予想通り高校では伸びませんでした。その後懸命にアシストをしたのですが、頭が伸び切って粘り（＝余力がなくなっていました）や執念もなくしていました。
- ☆同じく新宮中学でトップの生徒がいました 中学校の先生から「久留米附設でも受験したら」と勧められたのに対して、志成館の森館長は「そんなところに進学する必要はない」と真剣に取り合おうとはしませんでした。その生徒は福岡高校からでも数年に一度と言われていた当時の九州大学の医学部に現役で合格し、志成館で6年間講師をしてくれました。志成館の自慢話です。
  - (→) ついでに志成館の自慢話の一つなのですが、そもそも志成館から15名以上の大量の人数で福岡高校に合格したことはありません。しかし例えば、福岡高校8人の合格者の年に九州大学に14人合格しました。香住丘や新宮や宗像高校で飛躍的に学力が伸びたからです。
  - (→) さらに古い自慢話なのですが、福岡高校に進学したのが二人だった年に、一方は京都大学に他方は東京大学に進学しました。二人とも社会科見学には毎回参加していました。
  - (→) 自慢話のついでにお伝えしたいことは、志成館の今の講師の主力は当時とあまり変わっていないということです。ですから、中学3年生になってからでも、先生の言うことを素直に実行しておれば、誰でも難関大学に合格できるという指導をしています。
  - (→) 古賀東中学から志成館に中程度の学力で入塾した生徒は、入塾以来成績が下がったことが1回もなく、進学した香住丘高校でも伸び続けて、学校でトップになりました。昨年です。昨年は香住ヶ丘高校から東京大学に2人合格していますので、彼も東京大学に合格できたはずですが。彼自身は、九州大学を選択して、現在通っています。
- 繰り返しになりますが、(福岡高校ないし希望の高校へ向かってある程度の点が取れているという条件付きですが、) その人たちは時間がある時には、志成館が薦める良書を読んだり、歴史映画を見たり、国語の便覧を読んだり、福岡高校で使っている英語の vision quest (基礎学力があり九大以上を希望される生徒さんには5月以降にプレゼントします) のグリーンのページなどを読む方が、中学時のトップにこだわるよりも難関大学に近づくのです。
- 以上の流れから、「小学生時代から、中学入試にお金と時間と情熱を掛けるのは焦りすぎであり、子供たちの将来にとってはおまじない」というのが志成館の一貫した姿勢であることは、チラシなどにも載せていますのでご理解いただけたいと思います。もちろん多くの例外もあります。
- 東京大学でも「普通の公立高校から東大に来てほしい」というメッセージを発していることはご存知だと思います。古き良き時代の NHK (笑) で放送された内容なのですが、当時の小宮山宏東京大学総長は妻の親戚筋になりますので、サイン入り色紙が志成館の玄関にあります (笑)。
- こう考えてみると、中学3年生からの4年間は、この学歴社会での勝負の期間になります。
- 心と体もそれなりに整った年齢だからです。それに、中学時代の3年間に学ぶ学習量はとても少ないので、今からでも間に合うのです。 もっとも「強い向上心」が必要となります。
  - (→) ★高校の学習量は、中学時代の20～30倍になりますので、高校1年生の4月のスタートを失敗すると、夏までに、私立大学や浪人しなければならないことが決まるのです。
  - (→) そうならないように志成館では高校の英文法を片付けてあげているのです。
  - (→) 高校入試時に英文法が出来ておれば、数学や古典に時間を回せるからです。
  - (→) 久留米附設やラサールの生徒には高校3年生の夏までに追いつけばよいのです。

#### (4) 大学入試で勝てる高校に進学するために「中学で必要とされる成績」

- それでは具体的には中学の定期テストの点数はどれくらい必要なのでしょう。
- 具体的には、定期テストで86点以上を採ることが中学1～2年生の目標になります。
- この点数がとれておれば、将来「西南大学」に合格できる可能性が出てきます。
- この点数が取れない限り、部活動などをしてはいけません。中には「部活をしていないと入試で損をする」という言説を信じている人がいますが、嘘八百です。
- 上述のように、初めから「ブルーカラーで十分である」という人生観なら、それもよいと思います。しかしグローバルな就職戦線はとて厳しくなる一方であり、安閑としていたら、日本への移民によって仕事を奪われる時代が来ることも考えられます。
- 「西南大学」(そして「理科系では福岡大学」)を引き合いに出したのは、現在の日本の社会経済構造が変わらなしたら、「人並みの生活が出来る会社に就職できる大学に合格できる」と言うことです。
- ※世界中の産業構造が大きく変わりつつありますので、志成館では「世界に飛び出す勇氣」「世界で通じる言葉のマスター」「世界中で尊敬される人間になること」を目標に指導し続けてきています。小さな塾ですが、それでもこれが館長

の森にできる最善の仕事であると思って、日々情熱を燃やしています(笑)

→ですから塾がするべき「学習指導」以外の重大な責任は「人間教育」、つまり人間としての立派さが備わるような子供たちを育てるという事になります。

※この視点から、学業以外で広く教育者がなすべき指導は①全てを自分の視点からの発想をして他者の視点でものが見えない子の指導②わがままで先生や親の言うことを聞かない生徒の甘えた心をなくすこと③そもそもが怠け者でどんな場合でも楽な方を選択する生徒の指導④常に屁理屈を言って自己弁護ばかりしている生徒をなくすこと⑤いつもぼーっとして頭を使わない生徒の脳みそを常に活性化させること⑥授業のあとすぐに友達と騒いで。「おとなしく」なれないがために、記憶という作業を怠る生徒に「記憶の方法」を指導することなどが具体的な指導内容になります。

⑦勉強が最優先であることを認識していない生徒、とりわけ部活をしていれどどうにかなる、人と同じようにしておれば安全であるという考えの生徒たちの指導も大変です

・・・このようなわかりきったことを書く必要はないのですが、あとで塾生のみんなに読んでもらおうと考えていますのでご了解ください。

★学校の先生は、ある種の特権階級の側面と被管理者という厳しい立場にあるので、どうしても自分の預かる生徒が問題を起こさなければ、それで十分に責任を果たし、自分の仕事を守れると考えていることが多いように見えます。志成館ではこのような考えの人たちを真の「教育者」とは呼びません。志成館が考える真の教育者とは、自分の立場や生活を顧みないで、生徒の将来に役に立つ仕事をする人物です。

→今や陳腐(ちんぷ=古臭い時代遅れの)な考えや言葉になっているのかもしれませんが、しかしこのように理解していかないと子供たちが可愛そうですし、それに学校の先生は最高に「神聖」で「重責」ある仕事の一つだからです。

→同じような視点から、保護者の方をお願いしたいことは、「勉強に関しては厳しく指導して欲しい」ということになります。

→しかし、がみがみと厳しくしかっても子供は言うことを聞きません。ですから場合によっては、甘い指導になりますが、「にんじん作戦」が有効なのかもしれません。

→志成館でもあれやこれやの図書カードを使った「にんじん作戦」を採用しています。このような方法は「人間の尊厳に反する幼稚な指導である」ということはわかっているのですが。

→勉強は嫌いで不得意だから、現代の「学歴社会にはなじめない人」も多いと思います。それが正常なのです。ですから、たとえばアニメを書くのが得意であるとか、手芸やスポーツや音楽が得意だからという理由D、それを生かしたいと考えるのは素直な思考であると思います。

→しかしその才能を生かすも殺すも、やはり学歴が決定的になります。申し上げたいことは、人並みの学歴を身に付けて、他者に使われる(雇われる)ことよりも、他者を使う人間になる方が良いのではないかということです。

→AKBかHK TかTWI CEか色々なガールズ&ボーイズ・グループに入って踊って歌うよりも、彼/彼女たちをプロデュースをして、子供たちや少女少年たちを踊らせて、自分はたっぷりとお金を稼ぐ側になりませんかという提案なのです。

→小学生や中学生のあなた達に理解ができますか？

→京都アニメーションの放火殺人事件の映像でお気づきになりましたか？「あの劣悪な労働環境が」？ 正常な判断力がおありでしたら、あの会社の経営者の労働環境などに一切注意を払おうとしない経営姿勢=強欲さがすぐにわかるはずで、亡くなった多数の将来性ある従業員を殺した間接的な共犯者は、あの会社の社長と言えると思います。あなた達がどんなにアニメの技術が優れていても自分が経営者とならない限り、亡くなった人たちと同じ運命をたどらざるを得ないのです。

→ですから「厳しい学歴社会が嫌いだから」といっても、大学に入るまでは、学業に全てをかける必要があるのです。

→何度も申し上げますが、中学3年生からの頑張りです、間に合うのです。

→中学1年生から中学2年生の終わりまでは「定期テストで平均86点=中学2年生の終わりまではしっかりと学校の勉強についていけること」を目標にしておいてください。

→上掲のように、勉強が嫌いだと、今後は外国からの移民の人たちに、日本にある企業内でも、仕事を奪われてしまうことを真剣に考えてください。

→私個人は「世界市民的な発想」をしていますので、外国からの移民の人たちと日本人は同じように平等に仕事をする権利があると思っていますのですが、それでも志成館の生徒はいわば私の子供達の立場になりますので、他者よりも楽しくて豊かな人生を送って欲しいと願うのは、みんな同じだと思っています。

#### (4) 中学で必要な成績が取れるための「小学生に必要な学力」とは

→「中学生に必要な基礎学力をしっかりと身に付ける」ということになります。



→慌てないこと、他方で、基礎学力が身についていなかったら、「それを取り返すには2年以上はかかる」という認識で、志成館で2年間頑張ってください。詳細は副館長の安永の講話へ。

2020年3月21日(土)午前4時48分52秒

☆さっき出来たばかりの文章で未校正なので、誤字や脱字や不適切な表現があることをお許しください。

★保護者様への文書をもとに、同時に生徒さんたちへの指導用に使えるように改訂していますので、文体混乱していますが、事情をご理解されて、ご了承ください。

☆本日の説明会の話、短くしようと書き始めたものなのですが、かえって長くなりすぎました。

尚、「学歴社会」につきましては、志成館のホームページの中に、館長による15年くらい前の「渾身の(笑)文書」がありますので、参考になさってください。

志成館館長

森 英行